

コーヒー注文の作法

外国で買い物する場合とか、カフェやレストランで飲食を注文するときの作法は難しいと思うことがある。日本人はどうも遠慮がちで、本音をはっきり言わない傾向がある。唯我独尊で一方通行のこともある。‘コーヒープリーズ’と言うべきところを、ぶっきらぼうに‘コーヒー’とだけ言って澄ましている。ウェイターにしてみると、なにか喧嘩をふっかけられたようで、あまりいい感じがしないようだ。

言葉が分からないというだけでもなさそうで、日本人の慎み深い性格も関係しているようだ。日本人団体が食事を済ませ、ウェイターが一人ひとりにコーヒーか、紅茶を聞いて回る場合なんか、「右へ倣え」で最初の方がコーヒーを頼むと、残りは全員がコーヒーになったり、気の利いた？添乗員が「皆さんコーヒーでよろしいですね」などと勝手に全員コーヒーと決めて、そのままウェイターに伝える。それが、格調高いレストランのプライドの高いウェイターにしてみると面白くない。余計なことをするな。全員が同じ好みのはずがない、とばかり「では自分が一人ひとり注文をとる」という行動になる。ウェイターの注文をとる手間を省いてやったなどという日本人のおせっかいなんか、大きなお世話だと言わんばかりである。たとえ言葉は通じなくても、遠慮せずに自分の好みを言って欲しいというウェイターたちの純粋な気持ちは、本物志向の人々にとっては当たり前のことである。どうやら言葉が分からなくても、ほどほどに時間をかけて好みを注文するというのが、礼儀にかなって一番無難のようである。

(近藤)